全日本インカレ総合優勝を目指して

KUYC LETTERZINE

京都大学体育会ヨット部　活動報告

□インカレ団体戦予選　□部員リレーインタビュー　□全日本選手権　□琵琶湖周航　□今日のマネ飯　2018.10.1　[Vol.009]

４年間戦ってきた仲間と。一致団結して本選を迎えます。

インカレ団体戦予選

　こんにちは。4回生470スキッパーの梶村です。今回は9月15～17日に行われた団体戦予選について書かせていただきます。このレースは、11月に行われる団体戦本戦の地域予選で、470は3位までスナイプは4位までが予選突破できます。僕たち4回生にとっては敗退してしまうと、目標である本戦を待たずして引退が決定してしまう重要なレースです。京大470チームは予選を突破する実力を十分にもっているはずなのですが、1番艇である僕がメンタルの弱さから不調に陥ってしまい、一時は予選突破圏外にまで落ちてしまいました。そんな中3回生の松島と2回生の中川ががんばってくれているのを見て、このまま終わるわけにはいかないと、最後は自分の走りをすることができました。そして両クラス2位で予選通過することができました。

　スナイプチームは4回生スキッパーの小塩・中川が確実にシングル前半を走り、危なげないレース展開で2位突破しました。同じ4回生として誇らしく思います。そして次はいよいよ団体戦本戦です。4年間やってきたことを全国の猛者達を相手に出し切りたいと思います。実力を出し切って、悲願の両クラス入賞を狙っていきます。ご声援よろしくお願いします。

部員リレーインタビュー　member relay interview

009

日々練習に励んでいる部員の生の声をお届けします。
今回はクルー特集。470からは4回生の関爽人、スナイプからは3回生の長塚正一郎へのインタビューです。

470クルー・主務

関　爽人

１９９６年大阪生まれ。北野高校剣道部出身。工学部情報学科。ヒット洋楽を好んで聞いていたが最近はしっとり系の邦楽を聞くようになったらしい。何か彼の気持ちを突き動かす出来事があったのだろうか。

Q. プレーヤーとしてのアピールポイントは？

A.強風でも戦える体作りが自分の強みです。2年前の蒲郡インカレにて自分のあまりの非力さにショックを受け、技術云々の前にまずフィジカルを強化しようと、毎食1合以上お米を食べて日々筋トレに明け暮れました。こんな生活を続けたせいで、人生で初めてお米を見たくも食べたくもないと思う時期を経験しましたが、その甲斐あって今では10kgの増量に成功しています。その一方、最近は微風域でのスピントリムにも自信がついてきて、他艇を置き去りにした時は心の中でめちゃくちゃドヤ顔してます。

Q.これまでの部活を振り返って

A.この4年間で成功と言える瞬間は決して多くなく、むしろ失敗と反省を繰り返してきました。同回生のみならず2個下の後輩まで入賞を果たしたりと結果を出す中、自分はついこの前までその経験がありませんでした。でもだからこそ、最後の個人戦予選で初入賞して本戦出場を決めた時は本当に嬉しかったし、前を向いて頑張ってきた自分がとても誇らしかったです。辛いことは沢山あったけれど、ヨットと出会えて良かったと心の底から感じています。

Q. 団選本選にむけて

A.初めにも書きましたが、2回生時に蒲郡で惨敗を喫して以来、2年後この場所で前を走ることを目標に努力してきました。予選は後輩や同回生に救われて何とか突破することができたので、本戦では必ず自分のプレーでみんなを引っ張ります。今のチームが大好きなので現役最後のレースになるのは非常に寂しいですが、思い残すことのないよう全力で臨みたいと思います。第83代全員が笑顔で引退できますように！！

ラッシュの肩の部分が裂けているのは秘密。

スナイプ　クルー

長塚　正一郎

１９９６年神奈川生まれ。逗子開成高校出身。農学部資源生物科学科。次期スナイプリーダー候補。ほぼ毎着艇後にセブンイレブンのコーヒーとサラダを食べている。朝の起床後に白湯を飲み始めてからからだの調子が良いらしい。

Q. プレーヤーとしてのアピールポイントは？

A.スキッパーが帆走に集中できるように、工夫してることですかね。周りの船や風の状況、この先の展開などをスキッパーに伝えて、安心して帆走できるように心がけています。スキッパーによって必要としている情報は違いますし、技術的・精神的なクセがあるので、それに応じて「何を伝えるか」には気を配っています。また、用いる戦術も変えていて、それぞれのスキッパーにあった戦術で走れるように心がけています。

Q. インカレ総合入賞という目標達成に必要なこととは？

A.個人個人の力だけでは達成できないと思います。僕らのチームにはいわゆるスーパースターのような選手はおらず、純粋な技術力だけで勝ちに行くのは現実的ではないです。各々のペアが互いに信頼しあい、どんな逆境でも落ち着いた判断・セーリングができることが必要なのかなと思います。全日本インカレという、だれもが力の入る大舞台では、いつも通りの力を出し切るのは難しいはずです。メンタル面でアドバンテージを得ることができれば、必ずや実力以上の結果が出ると信じています。

Q.残り少なくなった83代京大ヨット部で成し遂げたいことは何ですか？

A.前を走っても、たとえ後ろを走っても、強い気持ちを持ってセーリングしたいです。勝負を決するさいごの数点は気持ちの差。そこで負けないように1点を大切に勝負します。前年度、あと2点で叶えられなかった入賞。今年こそはチームみんなで掴みとりにいきます。残り1ヶ月、自分のできることを精一杯やって、チームに貢献します。今後とも変わらぬご声援よろしくお願いいたします。

主将小塩と最後のレース。８３代を総合入賞へ導くクルーとなれるだろうか。

個人戦本選@若洲ヨット訓練所

8月31日から9月2日にかけて東京都若洲の若洲ヨット訓練所にて全日本学生ヨット個人選手権大会が行われ、京大からは470級2艇とスナイプ級1艇が近畿北陸予選を通過しエントリーしました。潮の強い海面で微風から強風、海風から陸風までの様々なコンディションで8レースが行われました。

京大艇は前を走る場面はあったものの、関東の大学との差を見せつけられる場面が多かったです。全日本インカレまで残りわずかしかありませんが個人戦で得たものをしっかり部に還元して団体戦への糧としたいです。成績は京大ヨット部のホームページをご覧下さい。

この後しっかり乗り揚げに注意してフィニッシュしました。

全日本ヨット選手権大会

全日本ヨット選手権大会本年度の全日本選手権は8/22～8/26にスナイプ級は福岡県小戸で、470級は江ノ島でそれぞれ開催されました。京大からはスナイプ級1艇(中川・青木)、470級からは3艇(梶村・関、松島・江澤、中川・八代)が出場しました。それぞれのレース詳細と結果につきましては、ヨット部ホームページより、8月30日、31日のブログをご覧下さい。

参加者各々が学んだ事を、今後の練習に反映し、より一層努力していきたいと思っております。また、今回の遠征ではレスキューや宿泊などにおいて、多くの方々に大変お世話になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。

いつものペア。一挙一動息があってますね。

琵琶湖周航

8/7～8/11に琵琶湖周航を行いました。琵琶湖周航は夏合宿の最初に2回生主体で行われる、1回生同士また1回生と上回生の交流を深めるためのイベントです。

1日目は南湖でヨットレースや琵琶湖の中心で愛を叫ぶなどを行いました。毎年愛を叫ぶでは何かが起こるのが常ですが、今年も衝撃的な愛を叫んでいる人がいました。2日目は車ごとに琵琶湖周りを移動しながら観光しました。夜は毎年お世話になっている、上妙寺に泊まらせていただきました。3日目は松の浦で湖水浴、バーベキュー、花火など夏らしいことをおこないました。途中参加の1回生も合流し全員で楽しむことができたと思います。4日目は艇庫で閉会式を行い、琵琶湖周航が終了しました。

これを機に1回生が一層仲良くなって、来年の1回生を楽しませてほしいと思います。

毎年恒例の琵琶湖周航。1,2回生の親睦が深まった。

今日のマネ飯　today's dinner

部員たちの体調を支える毎日の食事。その中の一つを紹介します。

～スイートポテト～

暑い夏も過ぎ去り、部員の出艇着も衣替えを見せ始めました。メニューが定番化しがちなマネ飯ですが、季節に合わせたメニューも考えています。例えば、秋の味覚のサツマイモを使った「スイートポテト」は、この季節のデザートとして根強い人気を集めています！日頃の練習の中で、ちょっとした楽しみを提供できるのもマネ飯ならではです。これからもプレイヤーの楽しみになるような料理を提供していきたいと思います！

3回生
マネージャー
佐藤　みのり

京都大学体育会ヨット部

滋賀県大津市鏡が浜番外地
京大ヨット部艇庫

[tel] 077-525-0312
[hp] https://www.kuyc-home.com/
[mail] kuyc.2013@gmail.com
https://twitter.com/kuyc_
https://www.facebook.com/kyotosailing/?fref=ts
https://www.instagram.com/kuyc_food/?hl=ja

文：梶村達志、関爽人、長塚正一郎、小塩浩人、八代竜之介、渡辺力、佐藤みのり　編集：藤田裕